

保健体育部会 研究の構想（案）

平成 24 年度～

I 研究主題

心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

平成24年度からの3か年は、心と体を一体としてとらえることを重視するとともに、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを目指し、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」を重要なねらいとし、指導計画や指導過程、評価の工夫についての研究を深めていくこととした。

平成25年度は、体育分野では、学習内容を明確にし、課題に応じた多様な学習活動を工夫した。保健分野では、実践力を育てるために、知識を活用する学習活動を積極的に行ったり、専門性を有する教職員や地域の人々等の協力を推進したりするなど、多様な指導方法を工夫した。

3か年の最終となる今年度は、生徒一人一人が生涯にわたって、豊かなスポーツライフを実現するために、運動の特性や楽しさに触れることができるようにし、運動量を確保して、一人一人に応じた指導を充実させたい。そのためには、次の2点に絞って、研究を進める。

- ・課題別やグループ別等、学習形態を工夫し、関わりを大切にしながら課題解決を図る学習を進める。
- ・生徒自らがビデオや学習カード等の教材や資料を選択し活用するとともに、それらを使って自己評価や相互評価を行う時間を設定する。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

(1) 体育分野

健やかな体の基礎となる身体能力と知識が定着するようにし、身に付けた段階に応じ運動を豊かに実践していく資質や能力を育てる指導の在り方の研究を通して主題を解明する。

(2) 保健分野

個人生活における健康・安全に関する内容を科学的に理解し、その知識を活用する学習活動を取り入れた指導の在り方の研究を通して主題を解明する。

2 研究内容

(1) 体育分野

- ・「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」の内容を明確にした指導過程の工夫
- ・指導の目標やその内容と対応した評価規準、評価計画の作成と見直し、指導に生かす評価の工夫

(2) 保健分野

- ・自らの健康を管理し、改善しようとする実践力を育てるための指導過程の工夫
- ・指導の目標やその内容と対応した評価規準、評価計画の作成と見直し、指導に生かす評価の工夫

保健体育科部会 平成 26 年度研究計画（案）

I 研究主題

心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

（体育分野）

身に付けた知識や技能を基に、その段階に応じ運動を豊かに実践していくための指導過程はどうあればよいか。

（保健分野）

自らの健康を管理し、改善しようとする実践力を育てるための指導過程はどうあればよいか。

II 主題について

体育分野では、運動に親しむ資質や能力を培うために、運動を豊かに実践したり、自らの健康を管理し、改善しようとしたりするための基礎的な知識や技能を身に付けることや、運動の行い方を理解すること、自己の課題に応じた運動への取組について思考・判断を行うことが大切である。また、明るく豊かな生活を実践していくためには、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲と運動に親しむ態度を育成することがさらに重要となってくる。

保健分野では、生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成が大切である。また、体育分野との関連を図り、心と体をより一体として捉えられるような学習を展開し、食事、運動、休養・睡眠の調和のとれた生活習慣の形成、ストレスへの対処方法、性に関する指導等を積極的に取り入れていく必要がある。指導に当たっては、事例を用いたディスカッション、ブレインストーミング、心肺蘇生法の実習等を取り入れ、意志決定や行動選択につながる実践力を身に付けさせることが大切である。そして、生徒の興味・関心や意欲を高めるといった観点から、養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員等専門性を有する教職員や地域の人々の協力を推進するなど多様な指導方法を工夫することが大切である。

平成24年度からの2年間は、全面実施された学習指導要領を基に、中学校の3か年を見通した上で目標や内容を明確にし、必修化となった領域及び運動種目の授業実践が多く見られた。また、課題設定やその解決に向けて、多様な学習活動を工夫するなど、指導過程の工夫を重点的に進めた。

最終年度となる平成26年度は、これまで2年間の取組に加えて、運動に必要な知識や技能を身に付けるだけでなく、ペアや課題別グループ、チーム等、学習形態を工夫し、生徒同士や生徒と教師が関わりながら課題の解決を図る学習を重視する。改善の方法を互いに話し合ったり、練習方法や作戦を考えたりしながら主体的に実践する中で、目標を達成するための効果的な言語活動の展開やコミュニケーション能力の育成を期待したい。また、終末には話し合いの時間を確保し、ICT機器や学習カード、生徒や教師の実演等を効果的に取り入れることで、自己評価や相互評価を充実させ、今日の課題に対する成果や次時の課題を生徒自らが明確にもてるようにしたい。そして、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」を視野に入れながら、これまでの研究をさらに深めていきたい。

Ⅲ 研究の内容とその視点

(体育分野)

1 指導計画の工夫

- ・発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。
- ・地域や学校の実態、生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮し、指導計画を作成する。

2 指導過程の工夫

- ・学習課題や資料の提示を工夫し、ペア、グループ、全体等、様々な学習形態を取り入れ、運動量を増やしたり、コミュニケーションを図ったりしながら、課題解決に取り組む。
- ・生徒自らが必要性を感じ、有効に活用できるような学習カードや評価カード、ICT機器を工夫する。また、一人一人の伸びが客観的に分かるように、記録や映像等で残るようにする。

3 評価の工夫

- ・自らの活動を振り返り、学習の成果が分かる自己評価や相互評価を工夫するなど、個人のよさや可能性を伸ばすことができる評価活動を実践する。
- ・評価規準を明確にし、単元全体の評価計画を作成するとともに、一人一人の学習状況を把握して、焦点化された評価の在り方を工夫する。

(保健分野)

1 指導計画の工夫

- ・指導目標を明確にして、指導内容の重点化を図る。
- ・適切な時期にまとめて学習できるように指導計画を作成する。

2 指導過程の工夫

- ・知識を活用する学習活動を積極的に行う。
- ・専門性を有する教職員や地域の人々とのチームティーチングを積極的に導入するなど、多様な指導方法を工夫する。

3 評価の工夫

- ・追究過程を記録したノートやレポート等を生かした評価の方法を工夫する。
- ・観察の観点を明確にし、思考の過程が見えるよう項立てを工夫する。

Ⅳ 研究方法

- 1 各郡市ごとに研究体制を組織し、部長及び研究推進委員を中心とした共同研究を推進する。
- 2 地域や学校の実態、生徒の心身の発達の段階や特性等を考慮して、調和のとれた指導と評価の計画を作成し、実践に努める。
- 3 過去の研究の成果や問題点を明らかにするとともに、特定の分野、領域（種目）、内容に偏ることなく、県・地区レベルでの情報交換を積極的に行い、研究の充実を図る。
- 4 本年度の研究の成果を「研究の歩み」として記録し、累積を図るとともに、次年度へ生かす資料とする。

